

# 来ぶらり71

## 「図書館への誘い」

桜の満開、乱舞する中に、今年も大勢の若さあふれる新生を迎えました。新生の皆さんもいまは、新しい大学生活をはじめのために一生懸命で大変忙しいでしょうが、もう少し時間がたてば大学生活になれ、キャンパスの地理も分かってくるでしょう。そのころに是非図書館を覗きにきてください。木立に囲まれた気持ちの良い場所にあり、(と私が勝手に思っている)大きな木が入り口にそびえています。

皆さんが図書館を利用する目的はどんなことでしょうか？ちょっと空いた時間潰しに新聞や雑誌を読み流すため、という場合もあるでしょう。

講義でちょっと分からなかったことを調べるとか、気になったことを自分でもっと深く調べて理解するためとか、予習の下調べをするためということもあるでしょう。

課題のレポート作成に図書館を使うことも多いでしょう。今では、インターネットが普及し、ネットで盛んにサーチを掛けて、あちこちのホームページから、資料を掻き集めて、ついでにネットに載っていた他人の意見をも、ちゃっかり自分の意見としてしまってレポートを作ってしまうという猛者も居たようです。5年位昔ならば、それでもネットを使って作っただけで大変珍しがられたようですが、いまではそのようなことも無くなったのではないのでしょうか？



ネットはすばやく情報を掻き集めるには、便利ですが、一つのテーマについて一冊の本が与えてくれる情報は、インターネットとは比べ物にならないくらい多く深いのではないのでしょうか？そして、本を読む過程でそれを消化し、自分の知識として身につける作業によって、自分の意見が作り出され他人とは一味違ったレポートを書けること請け合いです。

講義のテキストや参考書として名前がリストアップされている書物も図書館には、多くあります。とかく、参考書として名前が挙っていると堅苦しい感じがするものですが、とにかく一度その本を見てください。大変良い本であることが多いものです。中には一生の付き合いになることだって少なくありません。

試験勉強のために図書館に籠もることも多くの人がするでしょう。そんな時に息抜きのためにブラブラ書棚を見て歩いていて思いも掛けない面白そうな本を見つけることがかなり頻繁にあるものです。そのようなうれしい偶然を大事にしましょう。

教師の癖で、勉強の話ばかり書いてしまいました。が、常々読みたいと思っていた本を見つけて一

心に読みふけり、気が付いたら周囲が暗くなり、図書館の閉館時刻になっていたということもありますね。そのようなときこそ、本当に充実した時間を過ごしたという感じがするものなのではないでしょうか。

図書館長 藤原大輔  
(理学部教授)

- 4月1日から大学図書館長に就任 -



# 同じ雑誌

を何冊も必要ですか？

二十年前に読んだ本で『紙からエレクトロニクスへ』という本があります。副題に「図書館・本の行方」とあり、書物あるいはそれを所蔵している図書館の近未来的な姿を模索したとても面白い本です。この本の中で、書物というものが印刷体から電子的な形に変換され、読者はコンピュータとネットワークを介して資料にアクセスし、そして利用することになるであろうこと、またこのような媒体変換が比較的容易なものとして、索引類や学術雑誌が取り上げられています。今日の目からみればとりたてて目新しいことではないと思われませんが、この本がアメリカで刊行されたのが1982年、日本語訳が刊行されたのも1987年で、当時この本を新鮮な刺激を受けながら読んだ記憶があります。

この本が刊行されてから20年が経過し、この本が予測したとおり電子ブックや電子ジャーナルが図書館の資料として利用されるようになりました。しかし一方では印刷体の図書や雑誌が図書館の資料としては依然として主流であることに今のところ変化はないようです。

ところで図書館には日々さまざまな雑誌が寄贈されます。そのうちの大部分が大学や学会、研究所などが発行している紀要です。これらの紀要の一部はHPに掲載してインターネットで読めるようにしたり、CD-ROMに変換したりという動きもありますが、まだ一部の動きに止まっています。

この紀要ですが、学習院大学全体で同じ紀要を約350誌も重複して受け入れています。例えば「愛媛大学法文学部論集 人文学科編」は学内の5機関で受け入れ、そのうち3機関では製本までしています。同じ紀要を何冊も受け入れ、製本して保存するというのは手間も費用も、そして書架スペースの面からみても無駄なコストを掛けていることになります。このことは何も寄贈雑誌だけの問題ではないでしょう。購入雑誌でも、例えば「月刊言語」という雑誌は学内の6機関で購入しています。印刷物としての「もの」にこだわる限り、このようなコストを掛け続けなければなりません。紀要の電子化の動きも始まっています。20年前の予測が確実に現実化している今、同じ雑誌を「もの」として何冊も持つことは本当に必要なことでしょうか。寄贈されたら何でも受け入れるのではなく、学内のどこかが代表して受け入れ、これをお互いに利用するという姿勢が必要ではないでしょうか。

因みに本学図書館が加盟している山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムでは今年度より紀要の分担収集が始まる予定です。コンソーシアム加盟の8大学図書館が紀要をそれぞれ50誌と各大学が発行する学術雑誌を分担して収集し、保存するというものです。学内でもこのような資料の持ち方について見直す必要があるように思います。

総務課 倉持仁志

# 移り変わる大学図書館

## サービスと器

現在の図書館は、昭和38年、学習院創立85周年の事業計画により建設されました。図書館開館当初の配置は、1階の左側に自習室、右側に新聞雑誌閲覧室、入口を入った正面がロビーで、ゆったりとくつろげる空間でした。カウンターは2階にあり書庫の本や雑誌の出納をし、開架図書は3階にありました。昭和44年から館外貸出を開始。昭和45年頃から図書館の改革、未来像について会議を重ね、図書の増加や学生がアクセスしやすいようにと昭和48年に開架図書を1階の新聞雑誌閲覧室に移動し、開架図書・雑誌室としました。図書館に魅力を感じてもらおうよう昭和58・59年にさまざまな試みを始めました。「来ぶらり」の発行、来ぶらりセミナー、来ぶらり・ビデオの実施、開架図書室内に指定図書コーナー、アジア・アフリカコーナー、ベスト

セラーズコーナーを開設等です。やがて世の中はコンピュータの時代に突入、事務室に端末や周辺機器が入ってきて手狭になり、閲覧室をひとつつぶすことになりました。平成7年東1号館に事務スペース、書庫本の一部を移し、図書館内を改造しました。開架図書室が2倍になったことが一番の成果といえるでしょう。3階の自習室にパソコンが入り、インターネットで情報を検索しレポートを作成、メールで送信するといったように便利になった反面、静かに読書をする空間が失われてしまいました。開架図書のさらなる充実、AV資料室の開設等サービス拡大のためのスペースが今はありません。新たな器が必要な時期に来ているといえます。

元運用課 久保田 安子

- 2003年3月末に退職されました。 -



## 今の図書館、これからの図書館に想うこと

このたび、長い大学生活最後の2年間の中で、図書館長を勤め終えて強く感じたことは、今の図書館が大きな変化と多様化の中にあり、本学図書館もそれなりに対応して来ていること、一方で図書館には変化しないもの、変化して欲しくないものが厳然としてあるという二つのことです。

図書館で本を探す時、ひと昔前ならカードを繰りましたが、今の変化の主役は電子技術。皆さんもすぐ経験するように、大部分はパソコン上での検索で、利便性も検索能力も大幅アップ。それでも、本に囲まれて勉強しながらも、求めれば文献探しの手ほどきも受けられる、そういう図書館従来の基本のものは不変です。もう一つはデータベースの普及。例えば、新聞がデータベースになれば、記事の検索力は大幅アップ。でも、ある時代を帯びた縮刷版をそのムードの中で眺めたいという人もいるでしょう。Webの

登場で情報検索・情報収集、電子媒体による情報提供の技術は革命的に変わりつつあり、図書館も遅れを取るわけにはいきません。片や、基礎修行の時代には時間がかかっても本での勉強が基本、という立場の人も図書館はしっかり支えなければなりません。

これが図書館の多様化です。それに対応する新しい施設として、図書館の新館構想も検討課題となってきています。例えばイメージとして広い閲覧室と全面開架図書、多目的マルチメディアコーナー。昨秋完成しオープンしたそれらを兼ね備えた東京大学駒場図書館新館では入館者が1.5倍になったと聞きました。

これからの学習院大学図書館が、新世紀に向かってますます発展し、キャンパスの知的雰囲気を盛り上げる中心となっていくことを祈念しています。

前図書館長 黒田 成 俊

# 図書館があなたの味方になります！！

## 大学図書館館内ツアー、OPACセミナーのご案内

授業で課題が出されたり、レポート提出を求められたとき、ゼミで発表しなければならないとき、それこそ試験のとき、人より一歩先んじて図書館を味方しておくとし心強いはずですよ。

下記の企画に、ぜひご参加ください。

大学図書館館内ツアー	大学図書館館内施設および基本的サービスを案内します。図書館の使い方を覚えよう。	4月21日(月)～4月25日(金) 毎日 16:20～17:20	集合場所: 大学図書館1階カウンター前
OPACセミナー	学内所蔵資料の探し方を教えます。今までうまく探せなかった人もこれでOK。	5月12日(月) 5月14日(水) 5月16日(金) } 16:20～17:20	実施場所: 大学図書館3階 第2コンピュータ利用閲覧室
院生個別相談会	ゼミなどで後輩たちの文献指導を担当している院生の皆さんへ！図書館がバックアップします。	随時 (要事前連絡)	連絡先: 大学図書館2階 レファレンス・カウンター

いずれも原則として事前申込制です。ただし、当日の飛び入り参加が可能な場合もあります。

なお、日程および場所に変更があった場合は、掲示でお知らせします。

また、上記日程に参加できない方には個別対応をしますので、2階レファレンス・カウンターにご相談ください。

## ネットで百科 for Library

新規契約データベース



ふと何か調べたいと思った時に、学内のパソコンからアクセスできるオンライン百科事典です。例えば、キーワードとして『学習院』と入力します。学習院についての説明とさらに全文検索により、本文中に学習院という言葉が使われているすべての項目が表示されます。学習院とつながりのある、人名や名詞を簡単に調べることができます。ペーパーだと全文検索するには、すべてのページをめくり、目で探し出す必要がありましたが、このオンライン百科事典では短い時間で全文検索ができます。また、調べた結果を印刷することもできます。

ところで、いま頃よく目にするピカピカの一年生が背負っている「ランドセル」と学習院にどんなつながりがあるか知っていますか？興味のある方は、ぜひ実際に調べてみて下さい。



大学図書館ホームページ

中央の紫色

『外部オンラインデータベース』

左上の<総合>欄から

『ネットで百科 for Library』

を選択する。

(運用課)

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館ホームページ (<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>) で公開しています。

来ぶらり No.71 2003年4月1日発行

発行責任者：藤原大輔 編集委員：川中はるか・伊藤 修

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

☎03-3986-0221(代) 内239㉔(参考) 内239㉕(閲覧) 03-5992-100㉔(閲覧直通)